

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	一般小売店〔土産〕（店員）	お客様の様子	・地元菓子メーカーの偽装表示問題で、周りはかなり苦戦しているようだが、当社を始め、代替商品をそろえている店舗では、その穴埋めができており、現状維持もしくはプラスで推移している。客の購買意欲は変わっておらず、偽装表示問題の影響で生産中止となっていた菓子は無くても、他の土産物が揃っている店舗で買物をする状況が見受けられる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・3か月前と比較すると、販売量は3%ほど増えている。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・昨年よりもイベントを実施した際の来客数が増えている。
		観光型ホテル（経営者）	販売量の動き	・カーナビ付きレンタカーを利用した個人客は増加しているが、団体観光客が減少しており、全体では宿泊客数が減少傾向にある。ただし、宿泊単価、総消費単価共に伸びているため、売上は微減にとどまっている。
		観光名所（役員）	来客数の動き	・3連休の効果もあってか、昨年と比較して天候の悪い日が多いにもかかわらず、観光入込客数が前年比で7～8%程度上回っている。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・本格的な観光シーズンに入ったという要因もあるが、天候に恵まれたこともあり、3か月前と比べると、施設利用者数が60%近く伸びている。
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・残暑が厳しいため、大型店をはじめとした、衣料専門店の秋冬物は、靴、ハンドバックに若干の動きがあるだけであり、前年実績を超えることができない。また、2週続けての3連休で観光客が増え、駅前のホテルや屋台村などの飲食店は好調であったが、月間を通しての売上は微増にとどまっている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・来客層が固定化しており、一般利用客が少なくなっているため、売上が伸びない状況にある。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・8～9月と暑さが続き、夏物処分は順調だったが、単価が低いため、なかなか売上の増加にはつながらなかった。また秋物の出足も鈍かった。個人消費を喚起する要因が見当たらず、先行き不安が必要以上に定着しているように感じられる。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・9月は残暑の影響で気温が非常に高く、中旬から中旬に掛けては、秋物のジャケット、プルオーバー、セーター関連の動きが非常に厳しかった。下旬に入ってから、ようやく少しは動きがみられるようになってきた。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・客との会話の中で、家計状況や世間一般の景気の悪い話をよく聞く。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・今月も平年より気温の高い日が続き、秋物の動きが鈍い。特に20代から40代のヤングキャリア層の動きが鈍く、市内百貨店全体でも前年割れの状況となっているようである。また、中旬には地元球団のクライマックスシリーズ進出セールを各百貨店で実施したが、インパクト、セールの規模ともに小さく、定価品の落ち込みを補てんするには至っていない。
	スーパー（役員）	単価の動き	・9月に入り、既存店の来客数が前年比で4%伸びており、売上も前年比で4%ほど伸びているが、商品単価、客単価、1人当たり買上点数といった指標には変化はみられない。競合店も9月の売上が良いとは聞いているが、決して景況が良いとは感じられない。	
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・地上デジタル放送の開始を控えて、薄型テレビがよく売れている。客もよく店を回っているようである。	
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・薄型テレビを中心としたAV商品は地方都市を中心に前年比110%以上の伸びがあるが、冷蔵庫を中心とした白物家電や季節商材は前年比90%前後で推移しており、全体としては、ほぼ前年と変わらない。	

	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新型車効果に期待したが、相変わらず前年実績に届かない状況が続いている。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・今月の販売台数は前年と比べて1割減少している。
	住関連専門店 (従業員)	販売量の動き	・秋冬物の動きが悪い。
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・8月は来客数の増加があったが、9月に入り減少している。一方、客単価の伸びが著しく、前年を10%上回っている。商品価格をアップさせたという施策的な要因もあるが、全体的に高額商品の選択が多かった。
	観光型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・宿泊客やゴルフ客の動きをみると、依然として価格を抑えた商品に人気があり、販売量はあっても売上に結び付いていない。
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・販売額、単価ともに停滞気味で、一向に良くなっていない。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・国内個人旅行の受注は順調だが、添乗員付きの旅行は低迷している。海外旅行については、9月以降上向いてきているが、団体旅行は横ばいで伸び悩んでいる状況にある。
	タクシー運転手	来客数の動き	・休日はタクシーの利用が平日より大きく減少するが、9月は3連休が2度あったことに加えて、例年より暖かい日が多く、タクシーの利用が昨年よりも大きく減少しており、売上も減っている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・バスや電車による通勤が目立っており、極力タクシーの使用を抑えている様子がうかがえる。
	その他レジャー施設(職員)	来客数の動き	・春にトレーニングルームのトレーナーの新旧交替を行ったが、その後、リピーターを定着させるのが難しい。昨年までは利用者が前年を上回って推移していたが、春以降は、客の利用頻度、利用回数、利用人数が増えてこない。
	美容室(経営者)	お客様の様子	・客の来店周期をみると、今までと変わらない客と長くなっている客との差が大きくなってきている。年代別、職業別で消費意欲に差が出てきているようであり、特に年金生活者において、その傾向が顕著に表れている。
	住宅販売会社(経営者)	販売量の動き	・イベントでの配布物を目当てに来場する客が増えているが、成約には結び付かないのが実情である。
	住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・販売量の低迷は相変わらず続いているが、特徴的な面として、客の融資の審査にかかわる部分で、所得が減少していることを理由に、融資を断られるケースが非常に多くなっている。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・9月に入っても気温が下がらず、秋物の出だしが鈍かったことに加えて、客も何を着たら良いのかよく分からないということであり、非常に厳しい状況にあった。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・既存店の売上は前年比94.4%と、前月から2.3%の減少となっている。部門別では、衣料品が前年比89.9%、住居用品が前年比90.3%、食品が前年比97.3%、テナントが入居している専門店が前年比93.4%となっている。特に、衣料品は気温の高さが影響しており、アンダーウェア、靴は健闘したものの、婦人服、紳士服は前年比80%台にとどまっている。
	コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・8月の天候の影響で、第一次産業が全般的に不振であるほか、地元大手建設会社の倒産など建築業界も不振のため、買物客の単価低下がみられている。
	コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・来客数自体は回復しているものの、商品の値上げの影響からか客単価が下落しており、売上が伸びてこない。
	コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・前年と比較して買上点数が3%減少している。特に、酒やたばこでの減少が大きく、日々の消費を抑える傾向は更に加速している。
	衣料品専門店(店長)	お客様の様子	・展示会を実施しても客の買い方が慎重である。取引先に聞いても今月は悪い状況にある。

	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・札幌の高級レストランでは、売上が昼夜とも激減した。すすきの高級和食店では売上減少からか、数年前と比較して配膳スタッフが激減している。旭川市の人気店では、低単価メニューばかり売れていた。稚内市や伊達市では夜の人通りがあまりに少なく、繁盛店は限られている。特に地方都市の高級店では売上、来客数共に減少しており、深刻な状態である。	
	一般レストラン (スタッフ)	それ以外	・売上は前年並みで推移しているが、仕入食材、消耗品等の値上げの影響で収益が悪化している。	
	スナック(経営者)	来客数の動き	・9月に入ってから、観光客も一般客も客足が遠のいており、来客数が少なくなった。	
	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・最近の動きをみると、個人客に大きな変動はないが、団体客がかなり減ってきており、全体として来客数が減少傾向にある。	
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・来客数が少し減少しつつある。	
	旅行代理店(従業員)	それ以外	・原油高騰による燃油サーチャージの値上げや、マンマーなどの政情不安定による渡航心理への悪影響など、特に海外旅行を取り巻く環境が厳しくなっている。	
	その他サービスの動向を把握できる者	来客数の動き	・観光シーズンも終盤に入り、今月は期待していたが、週末の天候悪化もあって、実際には低調に推移した。	
	設計事務所(職員)	お客様の様子	・建築資材の値上がりや建築基準法の改正に伴う建設単価の上昇で、新築分譲マンションの着工が保留されたり、遅延している。また、在庫マンション戸数も2,000を超えと言われており、札幌の建築市場を支えるマンション建設が急激に冷え込んでいる。	
	悪くなっている	-	-	
企業動向 関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・ここしばらく横ばい傾向と感じていたが、最近になり、受注量が微量ではあるが増加傾向にあり、景況感はやや良くなっている。
		その他サービス業[建設機械リース](支店長)	受注量や販売量の動き	・建設、運送業界からの受注は相変わらずであるが、他業種からの受注がみられるようになってきた。
	変わらない	出版・印刷・同関連産業(役員)	受注量や販売量の動き	・首都圏からの受注が微増傾向にあるが、北海道内からの受注が減少傾向にある。
	輸送業(営業担当)	取引先の様子	・取引先の生産量に大きな変化は出ていないが、本州圏が猛暑のため、空き缶、空きびんなどの飲料用資材や飲料製品の荷動きが非常に順調であった。	
	金融業(企画担当)	それ以外	・設備投資は大手企業の実力増強投資が押し上げているが、中小企業によるものはまだ弱い。企業収益は原材料価格の上昇で圧迫されている。個人消費は、猛暑による効果があるが、所得環境の改善がみられないことから、一進一退が続いている。住宅投資は持家などが減少しており、弱含みで推移している。観光関連は、人気動物園と来年の洞爺湖サミットの効果で底堅く推移している。総じて景気は横ばいとなっている。	
やや悪くなっている	家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・異常気象や景気の減速感などの外的な影響により、消費マインドが減退している。	
	輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・外航コンテナ、輸入石炭は順調な推移を示しているが、道内の土木建築需要の大幅な落ち込みから、鋼材等の入荷は前年を大きく下回る状態が続いている。また、一般雑貨も低位で推移している。	
	広告代理店(従業員)	取引先の様子	・毎年、広告出稿のあった得意先が、業績不振を原因として広告出稿を次々と取りやめている。	
	その他非製造業[鋼材卸売](従業員)	受注量や販売量の動き	・受注見通しが悪化しているためか、資材や生産財消耗品が値上げされたにもかかわらず、値上げ前の価格による仮需要の発生が非常に少ない状況である。	
	悪くなっている	-	-	

雇用 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている			
	変わらない	求人情報誌製作 会社（編集者）	それ以外	・正社員、非正社員を問わず、地域全体の傾向として応募者数が減少している。都市部流出の影響からか、特に若年層の応募者の少なさが目立っている。結果として、決定率も悪化している。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・有効求人倍率は6か月連続で前年を上回っているものの、倍率は0.46倍と低水準である。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・新規求人数が前年比10.9%と増加に転じたが、情報通信業からの大口求人によるものであり、一過性のものに過ぎない。前月まで前年比は10か月連続で減少しており、累計比もマイナス0.7%と悪化している。
	やや悪く なっている	人材派遣会社 （社員）	雇用形態の様子	・正社員のニーズは引き続き高いものの、採用基準が相変わらず高く、なかなか採用されない状況である。求職者、求人はあるものの、採用されないというスキルのミスマッチの状況が続いている。これは求人企業側の業績に余裕が無く、経営状況がやや悪化傾向にあるため、採用に慎重になっていることの表れである。さらに、最近になり、販売職、営業人材の派遣、あるいはアウトソーシングの依頼が増えており、これも固定費となる人件費を削減しつつも売上を確保したいという業績が低迷している企業の姿と読みとれる。
		人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・前年の同時期に比べ、求人の動きがあまりよくないように感じる。
		求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・先月と比較して、飲食、小売、建設業などの求人件数の前年比での減少が、更に進んだように感じる。
		新聞社〔求人広 告〕（担当者）	それ以外	・広告売上が前年比で1割近く落ち込んでいる。特に流通、自動車、募集等の落ち込みが激しく、回復の兆しがみえない。
		職業安定所（職 員）	求職者数の動き	・目立った大量解雇の企業は無いが、事業主都合離職者が増加している。
職業安定所（職 員）		求人数の動き	・新規求人数の前年比が8か月連続して減少しており、有効求人数も10か月連続して減少している。	
悪く なっている	-	-	-	